



発行所
〒924-8544
石川県白山市三浦町500の1
石川県立翠星高等学校内
六星同窓会
印刷所
印刷
登印
能登

卒業生諸君へ



六星同窓会会長

杉山 榮太郎

卒業おめでとうございます。
ご当人はもとより保護者の皆さんや校長先生始め担任の先生共々大きな慶びと同時に大変ご苦労のあった事と思います。関係の皆様にご改めお祝いと同時に心から敬意を表します。

進学や新たな社会人として、出

発されるに当たり先輩の一人として一言申し上げます。

生涯に亘って、如何なる場合でも夢と希望を捨ててはなりません。これから学ぶ楽しさと知る喜びと耐える尊さを身に付ける事です。健康に留意して最後まで頑張ってください。

創立百三十周年記念式典を迎えて

校長

福島 洋



六星同窓会の会員の皆様には、日頃より母校の教育の充実・推進

につきまして、深いご理解とご支援を賜り、心より感謝を申し上げます。

ます。

また、本年、創立百三十周年記念行事を遂行するにあたり、重ねてご支援・ご協力を賜りましたこと、厚く御礼を申し上げます。

お陰様で、創立記念事業として、素晴らしい時計塔を生徒玄関前に、また豪華な小庭園を園芸棟前に、ご寄贈いただきました。

母校に寄せられました同窓生の皆様の暖かいお気持ちに、心から感謝を致すとともに、今後の教育活動に、大いに活用し、大切に維持管理してまいることをお誓い致します。

さて、創立百三十周年記念式典の当日の平成十八年十月二十一日(土)の朝、白山市は快晴となり、天候も本校の記念式典開催を祝しているかのごとく、すばらしい日本晴れでありました。前年、本校の校長を拜命し、早速、創立百三十周年記念事業委員会を立ち上げてから、二十一年におよぶ会合を経てようやく迎えた朝でありました。

脳裏に、あれやこれやといろいろな思いが駆けめぐりましたが、何はともかく、用意万端整えたと覚悟を致し、胸の高まりを覚えながら、式場の松任文化会館へと向いました。

当日は、山岸 勇・副知事、山田 憲昭・県議会副議長、角 光雄・白山市長、中村 勲・県文教公安委員長並びに地元選出の吉崎

吉規・県会議員、安田 舜一郎・

JA 県中央会会長、相川 光造・県森林組合連合会会長ら本校OBの方々ほか、紐野 義昭・文教公安委員、金田 清・県教育次長の方々にご来賓として出席を賜りました。そのほか、県立学校長約五十名、近隣中学校長十二名、同窓会員・翠星高校保護者の方およそ二百名にご出席いただき、そして全校生徒四百二十名並びに全職員六十名が参加しての記念式典となりました。

式典は、肅々と予定通りに進行できたと思われれます。後ほど、多くのご来賓や出席者の方々から、お褒めをいただき、ほっと胸をなで下ろしています。沢山、先輩方がおいでる中で、こうした周年行事に巡り会うことができ、誠に恐れ多いことながら、多くの皆様のご支援・ご協力により無事、校長として、大役を果たすことができましたこと、心より感謝を申し上げます。

なお、式典後の記念講演は、東京農業大学教授・前学長の進士 五十八先生にお願いを致し、「現代社会と『農』』という題でご講演をいただきました。

それは、農大が本校からの卒業生がたくさんお世話になつてい学校でもあり、また、本校の体育館の壁面に横井 時敬先生・東京農業大学初代学長の「荒怠相誠」

という扁額があり、創立百三十周年記念の講演には、前々から農大の先生にぜひお話をしていたきたいと思つていたのでした。

進士先生は景観政策学が専門であり、「美しい農村景観づくり」が持つ意義とその方法についてご講義くださいましたが、同時に農業高校で学ぶ意義についても多面的な角度から、熱くご支持をいただき、拝聴した生徒・職員は勿論のこと、多くの同窓生の方々に深い感銘を与えられたのでした。そのため、わざわざご出席いただいた後の祝賀会の会場でも、ひととき万人気の的でありました。

ともあれ、お陰様をもちまして、創立百三十周年記念行事はすべて無事終了いたしました。本校に寄せられましたご支援・ご協力に対し全ての六星同窓会員の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、今後とも末永く翠星高等学校にご厚情賜りますようお願い申し上げます。

また、進士先生のご来演にあたりましては、県の農大交友会の方々に随分、お世話になりました。重ねて、紙面をお借りして御礼を申し上げます。

皆様、いろいろとお世話になり、誠にありがとうございました。

翠星高校での生活を

ふり返って

三年 池松 俊哉

私は翠星高校に入学する以前から成し遂げたい目標が二つありました。それは、卒業するまでに何かで日本一になることと国立大学に進学することです。環境問題に興味があったので、入学後すぐバイオサイエンス研究会に入部しました。ここでは、専門的な研究に取り組むことができた上、その活動の中で地域の人たちと交流する機会にも恵まれました。充実した貴重な時間を過ごすことができました。また、研究会での活動が全国学芸科学コンクールでの金賞の受賞や特別三賞である江崎玲於奈賞をはじめ、様々な大会やコンクールで数々の賞をいただくことにつながりました。それらは、私の大きな自信となり、さらにやる気を高め、目標へと大きく前進させてくれました。高校では、バイオサイエンス研究会活動のほかにも色々なことに挑戦してきました。

例えば、全国高校相撲金沢大会に出場しました。この時は、先生やOBの方に毎日指導していただき必死に練習に励みました。大会本番では、私の二倍以上も体重のある相手と対戦しました。勝ち星を挙げることができた時はとても嬉しかったです。この相撲で培った体力と精神力と思えば私にとって一生の財産となりました。

高校生活を送っているうちに、日本学校農業クラブの全国大会で最優秀賞を目指そうと目標を定めました。なぜなら、農業高校で学んだ知識や技術、発表力を競う大会なので翠星高校で学んだ成果を最も発揮できる大会だと思ったからです。しかし、簡単に勝つことはできず、二年連続地区大会で負けてしまいました。最後の年であ

る今年度も意見発表会で頂点を目指しました。原稿作りと発表練習は今まで以上に力を入れ、特に発表練習では自分の発表をビデオに撮り、何度も発表の仕方を修正して大会に臨みました。そして、ブロック大会を勝ち抜き、全国大会で念願の最優秀賞を獲得することができました。また、併せて文部科学大臣賞という大変名誉な賞もいただきました。大変嬉しく、これまでの努力が報われたという思いでいっぱいです。

もうひとつの目標であった国立大学への進学に関しては、本校入学時から行きたかった筑波大学を受験することにしました。難関大学でしたが、第一志望を変更したくはありませんでした。私が受験したのは、AC入試と呼ばれる自己推薦入試でした。自分が取り組んできたことをまとめ、なぜ大学に入学したいのか、大学で何を学びたいかを訴えて合否が決まる新しいタイプの入試です。そこで、私は自分の高校生活のすべてをアピールしました。大学の入試センターに提出した資料は、5cmほどの厚さにもなりませんでした。その結果、難関を突破し、合格することができました。大学では高校時代に築いてきたことを礎に、自然環境の保全や希少植物の保護に関する知識と技術をより専門的に学んで行きたいと思っています。そして、将来は農業高校の教員になりたいと考えています。私は今、このように新たな目標に向かって一歩ずつ着実に前進していきたいと思っています。

最後になりますが、私は翠星高校でたくさんの方にお世話になりました。私が満足のいく充実した高校生活を送れたのは、その先生方のおかげであると思います。大変感謝しております。本当にありがとうございました。

四十八年ぶり インターハイ出場

陸上部 二年 中出恭平君

四十八年ぶりに陸上部の中出恭平君が四百メートルハードルで、インターハイ(大阪府)に出場した。
【今年度の主な成績】
平成十八年度
北信越陸上競技大会
四百メートルハードル 五位
平成十八年度
石川県新人陸上大会
四百メートルハードル 優勝



日本学校農業クラブ連盟 全国大会

意見発表部門

最優秀賞 受賞

今年度の県連大会(白山市松任文化会館)、北信越大会(ブロック大会(富山県)、全国大会(愛媛県))において優秀な成績を収めることができました。中でも全国大会の意見発表部門の環境部門では三年池松俊哉君が最優秀賞と文部科学大臣賞を受賞しました。

プロジェクト発表の部

- 北信越ブロック大会 最優秀賞
- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 「野生ランよ、蘇れ!そして、咲き誇れ、エビネ、シユンラン!!」
- 「バイテク技術を活用した野生ランの増殖と栽培に取り組んで」
- 三年 原田 梓 三年 池松 俊哉
- 三年 岡田 龍 三年 番作 真一
- 三年 平松 将広

石川県連盟大会 優秀賞

- 「天然酵母で手軽にパン作り」
- 三年 吉村緋沙子 三年 宮口 和也
- 三年 木谷 忍 三年 大野紗央璃

石川県連盟大会 優秀賞

- 「ハマナスの自生地保護活動 Part.2」
- 地域との連携
- 三年 高川 尚之 三年 玉田 周平
- 三年 土谷 茂 三年 荒井 泰輝
- 三年 西井 章 二年 安田 尚平

意見発表の部

- 全国大会 最優秀賞
- 北信越ブロック大会 最優秀賞
- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 「蘇れ!里山の自然」
- 三年 池松 俊哉

北信越ブロック大会 優秀賞

- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 「福祉ロボットの開発を夢見て」
- 三年 河村 聖哉

石川県連盟大会 優秀賞

- 「私の夢」(パティエシエ)」
- 一年 出口奈穂子

石川県連盟大会 優秀賞

- 「ハマナスのボランティア活動に

参加して

- 三年 土谷 茂
- 石川県連盟大会 優秀賞
- 「顧客満足度とマーケティング」
- 三年 田村美夕紀

農業鑑定競技

- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 三年 池松 俊哉
- 優秀賞
- 三年 岡田 龍
- 三年 平松 将広

園芸区分

- 全国大会 優秀賞
- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 二年 日鷹 美和
- 石川県連盟大会 優秀賞
- 二年 竹田 翔子
- 二年 高野 結香

食品科学区分

- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 二年 藤澤 文子
- 優秀賞
- 三年 吉村緋沙子
- 二年 伊藤ゆう子

企園区分

- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 一年 四十万 侑佑
- 優秀賞
- 一年 鉄車 元志

平板測量競技

- 石川県連盟大会 最優秀賞
- 三年 井田 和寿 三年 大萩 勝美
- 二年 土田 郁弥

農業情報処理

- 石川県連盟大会 優秀賞
- 三年 工 雄介 三年 山田 あい

農業で幸せ

平成十二年卒業 坂井 靖男



みなさんは農業について、どのような印象を持っていらっしゃるでしょうか。暑い日や寒い日の作業は大変だろう、汗だくで汚い作業服はスマートではないなど、あまり魅力的なものではないかもしれせん。

私の家は農家で、金沢市東部で小坂レンコンを栽培しています。幼い頃、両親の働く姿を見て、「ああ、我が家はこんな仕事をしているんや。腰を曲げて鍬でレンコン掘るなんて、ほんとに大変な仕事やな。」と思いました。それでも私自身は土いじりが好きで、小学校の頃にはピーマンの苗などを育てていました。その後、両親の巧みな「農業洗脳術」にかかったせいもあり、少しずつ野菜作りが楽しくなってきました。そこで、松任農業高校に入学し、更に農業短大で専門的な勉強をし、家業を継ぎました。この頃には色々な野菜作りにチャレンジし、みんなから「スーパリーのより美味しい。」

と言われることが、何よりうれしかったです。

しかし、いざ就農してみると、覚悟していた以上に大変でした。

暑い日も寒い日も関係なく、毎日毎日レンコンを掘る単調な毎日です。楽しいはずの収穫の喜びを味わうゆとりもありません。「いくら好きでも、仕事となると別やなあ。」と、ため息をついたこともあります。

それでも、心の底は穏やかだったように思います。何といても自然が相手の仕事ですし、いつも家族が一緒です。三食をともにし、家族と十分コミュニケーションをとる生活が、心と体に安らぎを与えてくれました。自分でやってみなければわからないしあわせがあると思います。

現代は、家族の絆が薄れてきていることが問題になっています。そういう意味で、家族ぐるみで苦楽をともにする農業は、自分にとって一番向いている仕事だと思えます。レンコン作りは、一人前になるのに十年はかかる難しいものです。しかし私は、粘り強く取り組み、誇りを持ってこれからも頑張っていくつもりです。

寅若君を偲ぶ



昭和三十一年卒業

亀田 勉

昭和三十一年三月、我々は県立松任農業高等学校の第一期生として無事卒業した。旧松任農学校の古い校舎ではあったが、私たちはどことなく大陸的で鷹揚な教師陣に囲まれ、勉強が甘じがらめになることなく、楽しい高校生活を送ることができた。

入学時、寅若君は私と同じクラス、物静かで他人をふんわり包み込んでくれるような、そんな雰囲気をもつ新入生であった。身丈が大きかったので、いつも後の席で静かに教室全体を眺めていたように思う。

当時の選択科目で私は美術を選択し、そこで寅若君の画の天分を知ることとなった。当時木炭画のデッサンをよくしたが、彼の右に出るものはなく、寅若君はクラス皆から畏敬の目でみられるようになった。

当時の米作りは日本の基幹産業として、活気溢れていた。農家は一粒でも多くの米を収穫しようと、懸命に励んでいた時代でもあった。

ることの出来なかった自分の境遇を、逆手にとった意地ではなかったろうか。

あれは昭和何年だったろう、我々の同期生合同の同窓会の計画が持ち上がり、これを機会に母校に記念品を贈ろうということになった。私は寅若君の画を贈ることを提案した。世話人全員が賛成してくれたので、さっそく寅若君に打診したら快く承諾してくれた。寄贈の画は農婦を描いた百号の大作で、当時の藤田校長も大変喜んで下さったのを思い出す。

一水会に入ってから彼の活躍はめざましく、会の重鎮、日展作家、絵画の指導者として多忙だったと聞く。

画も人生もいよいよ充実して、更なる飛躍を期待されたこの時期に病魔に冒され、画筆を折らざるを得なくなったのである。寅若君の切歯扼腕の音が聞こえるような気がしてならない。又、彼を誇りにして生きてきた我々も、掌中の珠を取り落としたような喪失感を覚えたものである。

この度、寅若君の遺作が白山市に寄贈されたと聞く。一時も早く市民の前に公開され、末永く愛されることを心から祈ってやまない。



創立130周年記念特集



時計塔

時計塔除幕式



記念庭園



タイムカプセル



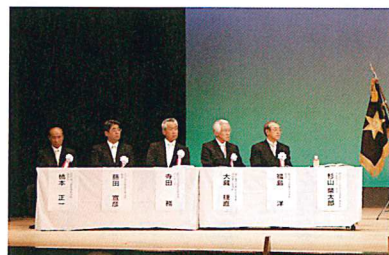
記念庭園植樹



オープニングセレモニー 琴の演奏



杉山榮太郎 六星同窓会会長 挨拶



主賓



開式の辞
藤田宣彦教頭



ご臨席頂いた
来賓各位



感謝状贈呈
受賞者代表 左から前田勝紀氏、金古勉氏、新明宏氏



吹奏楽部員とOBによる
バンド演奏



花束贈呈 3年 佐度多佳子さん



生徒代表の言葉 3年 池松俊哉君



バンド演奏 司会
3年 田村美夕紀さん



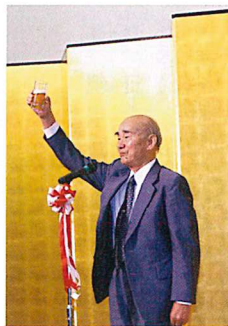
記念講演 講師 東京農業大学教授 進士五十八先生



花束贈呈 3年 前田なみさん



角 光雄 白山市長



乾杯 金古 勉氏



寺田 務 PTA 会長



開宴の辞
大蔵捷直
常任実行委員長



中村 勲 県議会議員



上田八良 関東支部長



閉宴の辞 西田雅博氏



有川光造
県森林組合連合会会長



舛田金明 小松支部長



一川保夫 前衆議院議員

創立130周年記念

平成18年10月21日(土)

記念式典

白山市松任文化会館

一〇:〇〇〜一一:〇〇

オープニングセレモニー 琴の演奏

演奏 邦楽選択生徒 指導 網谷 智子講師

安村ちひろ講師

式次第

1 開式の辞 司会 小滝 邦夫教諭

2 国歌斉唱 藤田 宣彦教頭

3 学校長式辞 福島 洋校長

4 記念事業委員会委員長 挨拶 杉山榮太郎六星同窓会長

5 来賓祝辞

(1) 石川県知事 代理 山岸 勇 石川県副知事

(2) 石川県議会議長 代理 山田憲昭 石川県議会議長

(3) 白山市長 山岸 勇氏

6 来賓紹介 石川県副知事 山岸 勇氏

石川県議会議長 山田 憲昭氏

白山市長 角 光雄氏

石川県議会議長 石川 憲昭氏

石川県文教公安委員長 中村 勲氏

石川県文教公安委員 紐野 義昭氏

石川県議会議員 吉崎 吉規氏

石川県教育委員会事務局 吉崎 吉規氏

石川県農業協同組合中央会 教育次長 金田 清氏

石川県森林組合連合会 会長 安田舜一郎氏

7 感謝状贈呈 呼名 有川 光造氏

河端志津教諭

- (1) 記念事業特別協賛者
- (2) 同窓会功労者
- (3) 永年勤続者

生徒代表の言葉 三年 池松俊哉君

校歌斉唱 藤田 宣彦教頭

閉式の辞 吹奏楽部とOBとのバンド演奏

指導 司会 三年 田村美夕紀

前田 秀教諭

安村ちひろ講師

感謝状贈呈者

1 記念事業特別協賛者(50音順)

池田 市造 浮田 幸雄 大藏 捷直

杉山榮太郎 戸田 久玄 前田 勝紀

松木 浩一

2 同窓会功労者(50音順)

浅田 孝夫 上田 八良 梅田 勝之

金古 勉 北村 信雄 小谷 重信

駒谷 正俊 島崎 兼三 杉山榮太郎

高野勘兵衛 多賀 八郎 徳田 直次

戸田 久玄 榎谷喜代子 橋場 善顕

本田 尚子 舛田 金明 舛田 久枝

南手 秀雄 宮本 勇 向 正夫

村田 貞雄 盛田 義弘

3 永年勤続者(50音順)

市村 実 上野 隆 江淵 幸三

金田 里江 木村 繁子 小滝 邦夫

下崎 良智 新 廣造 新明 宏

大門 佳子 寺田 修一 蛭田 淳

前田 秀 南 豊彦 宮下 正司

山崎 恵

記念講演会

一一:二〇〜一二:五〇

司会 小森 勇教諭

講師紹介 福島 洋校長

講師 進士 五十八氏

演題 現代社会と「農」

講師略歴



しんじ・いそや／東京農業大学教授・農学博士。日本造園学会会長、日本都市計画学会会長、東京農大大学長などを歴

任。現在、日本学術会議会員、同環境学委員長、日本野外教育学会会長、自治体学会代表連営委員、NPO日本園芸福祉普及協会理事長など。読売農学賞受賞。著書に「日本の庭園」(中公新書)「アメニティ・デザイン」(学芸出版社)ほか多数。

記念祝賀会

グランドホテル松任一四・三〇〜一六・三〇

1 開宴の辞 創立百三十周年記念事業

常任実行委員長 大藏 捷直氏

2 六星同窓会長挨拶 杉山榮太郎氏

3 学校長挨拶 福島 洋氏

4 PTA会長挨拶 寺田 務氏

5 祝辞 中村 勲氏

6 テーブルスピーチ 金古 勉氏

角 光雄氏

上田 八良氏

一川 保夫氏

舛田 金明氏

有川 光造氏

前田 勝紀氏

西田 雅博氏

8 万歳三唱

9 閉宴の辞

10 時計塔

11 記念庭園

12 創立130周年記念誌「十年のあゆみ」

式辞

校長 福島 洋

本日、石川県副知事 山岸 勇様をはじめ、多数のご来賓のご臨席を賜り、創立百三十周年記念式典を挙行できますことは生徒・職員にとりましてこの上ない喜びであり、この長き歴史と伝統を受け継ぎ、新しい農業高校としてさらに飛躍・発展させていくことに、校長としておおいにその職責を感じるところです。

明治九年、石川県金沢区方勸業所の農学科として発足して以来、本校は質実剛健・独立自営の建学精神の下、不撓不屈の松農魂を養い、幾多の人材を輩出し、全国に松農ありと、その名を轟かせてまいりました。

平成十二年には、新たな農業教育の発信を目指し、日本初の単位制農業高校・石川県立翠星高等学校として生まれ変わり、教育目標として、「心豊かな人間の育成」、「主体的な学習意欲や態度の育成」、「社会の変化に柔軟に対応できる能力の育成」を掲げてまいりました。先人達は、これまで本校の教育を通じて、有為な農業後継者や農業関連産業従事者を育成するばかりでなく、広く人間を育てるといふ、極めて大きな役割を果たしてまいりました。二十一世紀に入り、食料生産や環境保全の観点からも、農業教育が持つ有効性はますます

増すばかりか、「農業教育こそが持ちうる力」が再認識されています。生命を慈しみ、育てる農業教育にこそ、人間本来が持つ、他者への愛情やいたわり、そして生命を尊重するといった心を育む力があるからです。

本年度、翠星高等学校も七年目を迎えることになりました。昨年度は、全国学芸科学コンクールの自然科学部門で、バイオサイエンス研究会がようやく念願の金賞を射止め、江崎玲於奈賞、ほか三賞を受賞いたしました。本年度は、陸上部員が、翠星高となり初めて、インターハイの四百メートルハードルに出場いたしました。幾世代にも渡り、先輩達が築いて来られた長い歴史と伝統には、まだまだ遠くおよびませんが、生徒達は、「新しい歴史と伝統」づくりを目指して精進しております。本校は、創立以来百三十年間、地域に根ざした農学校として多くの県民に愛されてまいりましたが、今後もその使命を忘れることなく生徒・職員一丸となって鋭意専心努力してゆく所存です。

皆様方におかれましては、石川県立翠星高等学校へのご理解とご支援を、これまで以上に、どうか賜りますよう、最後にお願ひ申し上げます。この栄えある創立百三十年の式辞と致します。

ご挨拶

記念事業委員会委員長

六星同窓会長 杉山榮太郎

皆さんおめでとうございます。

私は昭和一五年に本校の前身であります松任農業高校を卒業した者であります。今ほど校長先生からのお話がございましたように、本校は農業高校としては、実に日本最古の歴史、一三〇年の伝統と歴史を有するすばらしい学校でございます。その間多くの卒業生が、地域社会に貢献されていることにあらためて敬意を表するものでございます。

また、この間お亡くなりになりました方につきましては、皆さんと共にあらためてご冥福をお祈りいたします。

さて、今日考えなければならぬ重要な社会問題として五つございいます。それは、かきくけこの五つで言い表すことができます。

一つ、かは環境問題でございます。今日、いろいろ環境問題多く叫ばれておりますけれど、紙の消費やその他で毎年、四国ぐらいの面積の緑が地球上から消え、砂漠化をいたしております。我々の住む地球が、毎年蝕まれていることを肝に銘じなければなりません。

二つ、きは教育でございます。資源の少ない我国は、知的財産を得ることが重要です。また、心の教育として、以前は、農業ではぐ

くまれた思いやりや、助け合うというものもございました。兄弟も多く、人生での初めてのよきライバルでもありましたが、そうしたのもも少子化のためになくなり、しのぎ合うということがなくなり、ました。また、アメリカの文化が多様に流入するための月賦販売やカード社会になりました。

教育は大変大きな問題でございます。三番目は、くの暮らしでございます。われわれ人間社会は、安心できる暮らしがあつてこそ、社会の発展や進歩があるわけです。夫婦や近隣の助け合い、思いやりやなど、すばらしいものを育んでまいりました。農業社会が風水害やあるいは自然との戦いのなかで共に手を携えあつて農業を守るための知恵でございますし、農耕民族としてのすばらしい伝統でもございます。

四番目は、けの健康でございます。ご承知のように医療費が実に三〇兆円を超えております。そうしますと、われわれは共済制度でございますから、自分の病気が即家族に迷惑をかけ、また社会にも迷惑をかけます。一人でも健康な人を多くすることが社会全体を明るくし、また経済的な負担も少なくする社会なのです。一人一人が健康で暮らすことを願つてやみません。

最後は、このコンテンツです。最近の言葉で若い皆さんは十分に

ご承知だろうと思えますけれども、まさに情報の氾濫の中にあつて何が正しのか、何が社会のためになるのか、選別する気力・体力・知力を養つておかなければならないわけでございます。

そういう意味での、かきくけこの五つの問題を心に命じて新たな進歩発展に一三一年の一步を踏み出すことを心から願つてご挨拶にかえます。

生徒代表の言葉

三年 池松 俊哉

金木犀の香りも高い今日の良き日、私たち四百三十三名の生徒一同が、待ちに待った創立百三十年の記念式典を迎えることができました。

ご来賓、諸先輩方をはじめ、先生方、保護者の皆さま、多数ご臨席のもとに、このように盛大な記念式典を挙行してただけです。とは、私たちにとても大変うれしく、感謝の気持ちでいっぱいです。

本校は、明治九年四月の創立以来、百三十年という長い歴史を重ね、伝統を築き上げてきました。本校は、我が国で最も伝統と歴史のある農業高校として大きく発展してきました。平成十二年には、農業高校として、全国で初めて単位制を取り入れ、自分の興味・関

心に沿った授業が選択できるようになりました。

私たちは、農業科目を中心に学び、バイオテクノロジーや情報処理、福祉など時代に即した授業を選択することによって、専門的な知識や技術を身に付けています。

これらの専門科目を学習することで、問題解決能力や実践力など現代社会を生き抜く力を養うことができます。私たちは次代を担う若者として、農業だけにとどまらず、日本の発展にも大きく寄与できるように、できる限り努力を重ね、社会に貢献していく所存です。

さて、今回の創立百三十年に際しましては、生徒玄関前に時計塔の設置と東門横に庭園を整備していただきました。誠にありがとうございます。近年、皆様方のご尽力により、施設・設備が益々充実しておりますことは、この上ない喜びであり、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

私たちは、今日のためたき日を契機として、翠星高校の生徒としてより一層の自覚を持ち、歴史ある本校の良き伝統を継承するとともに勉強は勿論のこと部活動や研究会活動、農業クラブ活動においても、一段の成果を上げ、諸先輩方のご期待に応えられるよう一杯頑張っていきたいと思っております。本日の記念式典にあたり、私たち生徒の決意を代表して述べさせていただきます。お礼の言葉といたします。

支部だより

関東支部

平成一八年十一月二十五日(土)日本教育会館(千代田区一ツ橋)で、第十回関東支部総会が開催されました。事務局を代表し福島校長、また田端教諭が出席しました。総会は、山田外彦氏の司会で、上田八良支部長挨拶、来賓挨拶として福島校長より、また一三〇周年記念記念事業報告として田端教諭の説明がありました。平成一八年度事業報告、決算報告、平成一九年度事業計画、予算案がすべて承認されました。山本博評議員の乾杯で懇親会が始まりカラオケや学生時代の話で大いに盛り上がりました。



関西支部

関西支部長 宮岸 岩夫
六星同窓会関西支部の年間最大行事である平成十八年度の総会が去る九月十日大阪市中央区森ノ宮

中央「アピオ大阪」松の間において、会員十五名と来賓として母校より藤田宣彦教頭、田端逸夫教諭をお迎えし、活発な議論を展開しながら盛会に開催しました。



金沢支部

【新支部長に大蔵捷直氏】
平成一八年七月一日(土)金沢市「ホテルイン金沢」で総会が盛大に行われました。

総会は戸田久玄支部長、福島洋学校長の挨拶の後、会務報告、会計報告、監査報告、一三〇周年記念事業の説明などがありました。また、役員改選があり、新支部長に大蔵捷直氏、新幹事長高木伸也氏が選出されました。総会後、毛利駒江さん(元金沢大学附属病院副看護部長) S三四 経卒の「いのちみつめて」と題する講演を拝聴しました。その後、懇親会では開宴挨拶、上田忠信氏で始まり、閉め、金古勉氏で閉宴しました。

事務局だより

- 会計監査 5月17日(水) 本校
常任理事会 5月27日(土) 本校
理事会・総会 6月3日(土) グランドホテル松任
《支部総会》
【金沢支部総会】 7月1日(土) ホテルイン金沢
福島校長、田端教諭出席
【加賀支部総会】 7月14日(金) 長生殿
福島校長、田端教諭出席
【関西支部総会】 9月10日(日) アピオ大阪
藤田教頭、田端教諭出席
【関東支部総会】

- 11月25日(土) 日本教育会館
福島校長、田端教諭出席
《創立130周年記念行事会議》
【常任実行委員会】
第1回平成17年7月29日(金)
第2回 10月1日(土)
第3回平成18年1月25日(水)
第4回 5月27日(土)
第5回 7月24日(月)
第6回 9月28日(水)
第7回平成19年1月26日(金)
【実行委員会】
平成17年10月1日(土)
叙勲
瑞宝小綬章
田村 邦夫
瑞宝単光章
中西 一

創立130周年記念事業 決算

収入の部 単位：円

項目	予算額	決算額	摘要
募金額	12,000,000	12,365,516	
寄付金	1,000,000	1,765,160	PTA(1,000,000) 翠星会(100,000) 教職員(580,160) 祝儀(85,000)
祝賀会費	0	560,000	
雑収入	0	3	
繰入金	0	800,000	
合計	13,000,000	15,490,679	

支出の部

項目	予算額	決算額	摘要
行事費			
式典	500,000	895,585	謝礼・看板・プログラム・除幕式他
記念品	1,350,000	830,763	花瓶・湯飲み・マグカップ・額縁他
講演	1,100,000	307,790	講師謝礼他
祝賀会	900,000	1,334,885	会場設営費・会場費他
予備費	50,000	43,256	
小計	3,900,000	3,412,279	
事業費			
記念事業	3,000,000	3,794,790	時計塔・記念庭園・タイムカプセル他
10年の歩み	600,000	309,750	1000部
予備費	50,000	0	
小計	3,650,000	4,104,540	
事務費			
会議費	300,000	140,941	役員会
印刷・通信費	3,600,000	3,619,166	趣意書・封筒・招待状・案内状他
広報費	900,000	577,500	新聞広告
雑費	50,000	59,928	印鑑他
小計	4,850,000	4,397,535	
雑費			
雑予備費	400,000	110,025	
予備費	200,000	0	
小計	600,000	110,025	
繰り出し金	0	800,000	
合計	13,000,000	12,824,379	

収入の部 15,490,679円
支出の部 12,824,379円
差引残高 2,666,300円

創立130周年記念事業収支決算概要
決算概要は、2月9日現在のものです。六星だより印刷・郵送費等の未払い金(約320,000円)があります。最終決算は、平成19年度同窓会総会で報告します。

《六星賞》授与
本年度より、在学中に特に優秀な成績を収め、母校の名を高めたものに同窓会より、記念品を添え表彰することになりました。本年度は、池松俊哉君に贈ることになりました。

- 横山 義男
フランス
レジオン・ドヌール勲章
舛田 久枝
県森林組合連合会会長 就任
有川 光造
県教育長就任
中西 吉明